

番号	91	水害復旧記念碑 佐賀縣知事 鍋島直紹書		
所在地	小城市三日月町道辺山王483 山王神社			
災害別	昭和24年（1949）ジュディス台風 水害			
目的別	記念碑		建立年	昭和26年
特記事項	碑文は判読困難			



小城市三日月町の祇園川沿いにある山王神社敷地内に建つ昭和24年8月のジュディス台風水害の復旧記念碑。

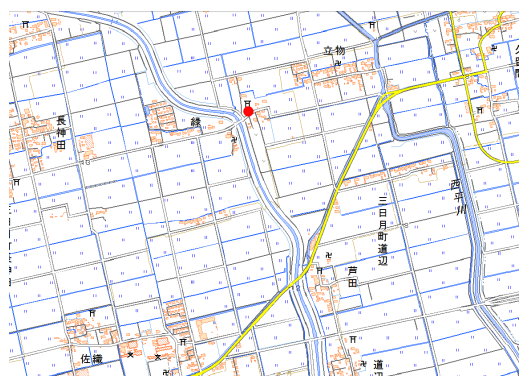
復旧工事は県の助成のもと村民総出で行われたと三日月町史には記されている。

碑文は判読困難であるが、三日月町史にその全文が掲載されているので引用する。

※以下、三日月町史 下巻（H元年11月1日発行） P123～124 より

水害復旧記念碑 佐賀県知事鍋島直紹
「碑文 昭和二十四年八月十六・十七両日の台風は豪雨を伴い西九州を襲ふ、就中天山山脈を中心に猛威を振り瞬時にして平坦地方を泥海と化す、家屋或いは橋梁の流失堤塘の欠壊等幾十を算す、猶水死者十指に余りあり、斯かる悲惨なる天

災は前代未聞なり、祇園川緑地内の堤塘は立物緑両部落民の必死の補強工作も其効を奏せず、終に午前五時緑橋上流の堤塘五百米欠壊したるを以て一時に濁流をのみ、同時に岩松方面の流失家屋橋梁其他土砂等の流入に依る惨害は其極に達す、殊に吾等生活上の基盤たる四十五町余歩の美田之原型を止す没て水稻の被害は最も甚大なり、共に楽む秋の稔は一夜の夢と化し自失啞然たらしむ、如何なる天



国土地理院電子国土 Web

災も是か復旧は人為に待つべく他に策の得たるもなしと、依て一同のもの互に奮起を促して復旧組合を設置、老幼男女別なく然も仆れて後止まんの堅き決意の下に工事に着手せり、

猶上司の支援並に日本農事開拓株式会社及び地元業者の援助の下に、十万三千立米の排土も辛ふうして成し遂ぐるを得たり、岩をも貫く固き信念と努力の効空しからず、二年有半の歳月を経し今日に於て復旧美果を収めたることを得たり、爰に於て力一同は彼岸に達せし喜を祈念せし為本碑を建つ

着工 昭和二十五年一月八日 竣工 全二十六年五月末日 工費 二千六百十六万圓
昭和二十六年十月十三日 山田憲二 稿書」 （原文はカタカナ表記）

